

令和3年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

(その1)

目指す 学校像	一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校 (信頼される安心安全な学校・明るく活気のある学校・地域とともに歩む学校)			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成 状況
<p>進学面では、大学合格者数が大幅に増加した。定期的な進路ガイダンスの実施、日常的な進路相談、HSJ特進ゼミ等により、生徒の意識、意欲が高まった。就職では地元企業を中心に学校推薦による就職内定率100%である。学校評価アンケートの結果から、「進路指導が丁寧である」「先生や生徒と積極的に挨拶をする」が8割を超えている。一方で「学校行事が充実している」は約7割であった。生徒ファーストの精神で良好な人間関係を構築し、日常的な学習、進路指導、特別活動の充実を図る。</p> <p>神栖市と市内3高校の包括連携協定でスクールバスの運行計画や防災教育を実施した。校種間交流など、地域との連携のさらなる活性化を目指す。</p>	学習指導	① 授業研究等による授業改善 (生徒の実態に即した授業・対話力・発信力を意識した授業・学ぶ楽しさが実感できる授業) ② ICT環境の整備と改善 (classiの活用) ③ 観点別評価の工夫		B
	特別活動・部活動	④ 集団を率いるリーダーの育成・主体性を育む学校行事 (キャリアパスポートの活用) ⑤ 生徒会活動の充実・常任委員会活動の活性化 ⑥ 部活動の活性化と加入率向上		B
	生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上		B
	進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化 ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進		A
	地域・関連機関との連携	⑭ 関係諸機関との連携 (神栖3ココシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等) ⑮ 地域とともに歩む事業 (柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業)		B
	働き方改革	⑯ 全職員の連携と業務の効率化 ⑰ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識浸透		B
三つの方針		具体的目標	評価	次年度 (学期) への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○自己実現に向けて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財 ○個性や多様性を相互に認め合うことができる、心豊かな人財。 ○学校で培った資質や能力を生かして地域社会に貢献できる人財	C	卒業時に望まれる姿を実現するためのあらたな取り組みと、具体的な目標の設定。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○主体的に対話的な授業の展開により対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための学習活動の展開。 ○学校が地域や社会と連携・協働しながら生徒の成長を支え、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	B	学校の教育ビジョンを地域や社会と共有できるよう体制を整備する。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守ろうとする生徒。 ○自分の進路を切り拓くために挑戦できる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協同して積極的に取り組む生徒。	C	地域の人々や中学生、中学校関係者に、学校が期待する生徒像をについて、理解を得られるように広報に努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	授業環境を整備する。	教科グランドデザインとシラバスを整備し、授業の柳川スタンダードを策定する。①③	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・Classiの運用方法 ・職員研修の運用と効果 ・奨学金説明会での提示方法 ・学校行事の設定 ・内規の整備と見直し ・校内文書の整理
		グループによる授業研修と評価方法の職員研修を月1回以上実施する。①②③	C		
	校内環境を整備する。	教育的価値を意識した校内掲示、教室掲示を主導する。①	C		
		ユニバーサルデザインを意識した教室環境を主導する。①②	C		
	図書館の利用率を上げる。	月1回の図書委員会を開催して、図書委員会を機能させる。⑤	A		
		読書以外の利用価値を模索し、1回以上利用する生徒を100%にする。①⑤	C		
進路指導	望ましい行動を引き出し、生徒の行動を強化する。	全教科でアクションシートの通年実施をし、表現力の向上を目指す。③⑩	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションシートの全教科実施を目指す。 ・ICT活用及び単元テストの実態調査を行う。校内研修の実施を含めて検討する。
		生徒の意識を高める進路ガイダンスを実践する。⑫⑬	A		
	活発な言語活動を実践する。	ICTを活用した授業や単元テストで言語活動の実践を促す。②③⑩	B		
		進路ガイダンスや総合的な探究等に言語活動を組み込む。①⑩	A		
	適切な進路指導をする。	3学年の最終進路決定100%を目指す。⑩⑫	A		
		2学年末までに90%の生徒が希望進路を決定することを目標とする。⑩⑫	A		
	適正な文書処理や真摯な生徒対応をする。⑫⑬	A			
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の内容の確認と統一 ・内規の整備、見直し、共通理解 ・特別指導を含めた効果的な指導の再構築 ・SNS使用に関する継続的指導 ・交通事故防止など登校指導の充実 ・生徒が主体となり、規範意識を高められる校風づくり
		遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	C		
	健康・安全に対する意識の向上。	病気・交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑧	A		
		登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑧	B		
	携帯電話の使用マナー向上。	校則を理解させ、節度ある使用を心懸けさせる。⑦⑨	B		
		外部講師を招き、SNSに関するマナー・トラブルを理解させる。⑦⑨	B		
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る	快適な学習環境を目指し、組織的な環境美化活動を実践する。⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の励行 ・環境整備(換気・消毒) 予防教育 ・環境美化に対する意識を高める ・清掃活動・・・全生徒による清掃活動 ・防災意識を高める ・防災に関する行事(年2回予定)
		施設・設備の維持改善を講じ、安全管理を図る。②⑦	B		
	健康に対する意識の高揚を図る。	学年・担任と協力連携して、生徒の心身の健康の向上を目指す。⑦⑭⑯	B		
		感染症予防教育を行う。⑭⑯	A		
	防災意識を高める指導をする。	外部講師を招聘し、防災講話や避難訓練を実施することで、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑭⑯	A		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	地域活動や支部活動に参加し、地域へ貢献することに努める。⑭⑯	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で中止、変更となった活動の再開。生徒の活動、みなさまの活動あつてのPTAという自覚のもとで事務局としての役割を果たす。
		マナーアップ活動への参加促進を行う。⑦⑭⑯	B		
	保護者・教職員とともに参加型の活動を促進する。	校内行事や企画への積極的参加を呼びかける。⑤⑭⑯	A		
		保護者との協働によりコミュニケーションの向上をはかる。④⑭	A		
PTA広報誌の充実を図る。	学校からの情報発信を高めるとともに、広報誌の質的なアップをはかる。⑭⑯	B			
特別活動	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感を高め、学習や生活への意欲を高める。④⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を集める窓口をつくる。 ・部活動の活性化に向けた新しい方法の研究。
	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。④⑤⑥	A		
	部活動の活性化を図る。	地域のスポーツ人材と連携し、効果的な活動を目指した指導体制を整備する。⑥⑭⑯	B		

評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

1 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムを意識した習慣を身につけ、自ら身だしなみを整える意識を高める。 ・Classi を積極的に活用している。 ・学力に不安のある生徒の底上げを図るとともに、資格取得について関心の低い生徒の意欲を喚起する。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。④⑦	B		
	場面に応じた学び方を身につけ、基礎学力の定着を図る。	朝学習や1日1ページノートを活用し、自主的に学習する姿勢を養う。①⑩	B		
		I C T教材と紙媒体を併用し、個々に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上に努める。②⑩	B		
		特別活動への積極的参加や資格取得への挑戦を促す。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤⑥		
資格取得に積極的に挑戦し、自分の強みを知り、活かすことのできる生徒を育てる。④⑪	C				
2 学年	時間を守る。基本的生活習慣を身につける。	時間を守り、欠席・遅刻・早退の少ない学年を目指す。⑦	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Classi などの ICT を活用し、連絡や学習の定着を目指すことができた。 ・時間を守り、チャイムと同時に授業が開始できるように目指す。
		身なりを整え自らが進んで挨拶できる生徒を育てる。④⑦	B		
	進路実現への知識と能力を身につける。	ガイダンスやHRを使い進路情報を提供し、自らより情報を集めるような意識の向上を目指す。⑩⑫⑬	B		
		自ら進んで自分に必要な知識や学習能力の向上を図る。①⑩⑪	B		
		学習に対する習慣を定着させる。	朝の時間を使い基礎学習力の向上を目指す。①⑩		
1日1ページノートやclassi を使い家庭学習の定着を図る。②⑩	A				
3 学年	自他を尊重する態度を身につける。	最上級生としての責任と自覚を持った行動ができる生徒を育てる。④⑦	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の資格取得に努めるなど、自ら学ぼうとする意欲があり素直に行動する生徒が多く、進路実現のために生徒とともにつとめることができた ・服装や問題行動、遅刻など規範意識の定着のための方策を再検討する必要がある。
		互いに認め合い高め合う、謙虚な態度と寛容な姿勢を育てる。④⑦	B		
	自己実現に向け、チャレンジできる人材を育成する。	主体的に対話的な学びを通して、基礎学力の定着を図る。①⑩	B		
		資格取得やボランティアなどに積極的に挑戦し、自分を磨く生徒を育てる。④⑪	A		
		進路指導部や各教科と連携し、生徒の進路希望の実現に努める。⑩⑪⑫⑬	A		
社会に貢献できる力を育成する。	社会人としての広い視野や深い判断力を備え、主体的に行動できる生徒を育てる。④⑬	B			
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督励して、対策指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書きができる力を養う。①⑪	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用には積極的に挑戦できた。 ・次年度は検定対策の内容を再考し、合格者の割合を増やしていきたい。
		反復練習によって用言の活用をできるようにし、古典読解への基礎力を養成する。①	B		
	文章読解力を養う。	文章を的確に理解し、自ら意見・考えを持てる力を養う。①	B		
地理 歴史 公民	基礎・基本の定着と、歴史的思考力・地理的認識力の向上を図る。	I C Tと紙媒体を併用して生徒の実態にあった授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレット等の I C Tを活用した授業を実践したい。諸課題を自分事として考察する力、自分の言葉で表現する力を養う方策を構築していきたい。
		日本や世界の諸課題を多角的・多面的に考察し、自分で考え、自分の言葉で表現する力を養う。①⑩	A		
	基礎・基本の定着と、現代の諸課題への考察力・判断力の向上を図る。	I C Tと紙媒体を併用して生徒の実態にあった授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②	B		
		社会に生きる一市民としての自覚を持ち、現代の諸課題を自分事として考察する力を養う。①⑩	A		
数学	基礎・基本の定着を図る。	ICT と板書を併用して、生徒の実態に合った授業を実践する。①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の使用回数が少なかつた。小テストを繰り返すことで、計算力が向上した。
		小テストなどで理解度を確認できるようにし、基礎・基本の計算力、応用力を高める。①③	B		
	主体的に問題を解決する力を養う。	既習事項をもとに、問題を解く道筋を考えられるよう支援する。①⑩	B		
生徒に数学検定の受験を勧め、対策ゼミを行い、合格率を上げる。①⑪	C				
理科	科学的な基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。	板書や ICT 教材を工夫し、生徒の実態に合った授業を展開する。①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用した授業を取り入れることができた。実験観察をより一層取り入れ、見て触れて理解できる授業の実践を心がける。また理解度の向上にも着目して授業展開を工夫する。
		小テストなどで生徒自ら基礎的・基本的事項の理解度を確認する機会を設け、課題を明確にさせる。①③	B		
	身近な事物・現象に興味をもち、根拠を基に考え・説明する力を養う。	演習実験・実験を的確に実施し、対面授業と関連させ科学的事象を体験する。①	B		
		口頭発表やプレゼンテーション・報告書作成など、発表する機会を積極的に設ける。①③⑩	C		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

保健 体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	健康・安全に配慮し、主体的に学習に取り組む態度を養うような学習活動を展開する。①②	A	B	・ICT活用に向け環境整備、研修を行う。学習カードの精査。評価の方法の精査。Withコロナの体育の在り方の検討。
		スキルテスト等を行い、運動技能の習得と課題解決に向けた姿勢を養うように努める。①③	A		
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。①③	B		
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	基本的技術を身に付けさせる。①③	A	B	・実技教科として万全な感染症対策を徹底させたい。また、移動教室に際し時間を守る意識付けをし、授業に取り組む姿勢を促す。
		様々な表現方法を体験させる。①③	B		
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①③	B		
		芸術についての理解を深め、主体的な学習態度を身に付けさせる。①③	B		
家庭	家庭に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	安全で衛生的な教具や実習室を整備し、主体的な学びができるよう実習や体験的活動を工夫する。①③	B	B	・授業での効果的なICT活用に向けて更なる研修をする。感染対策の継続。新カリ実施に向けた指導計画・評価方法等の再検討をする。
		校内外の研修を通してICTの活用などの授業改善を図る。①②⑩⑭	B		
	家族や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	授業の学びを活かしてホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践し、家庭や地域生活の課題を解決できる能力を身につける。①⑩⑭⑮	B		
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	生徒の実態に応じて教材を工夫し、授業において効果的に活用する。①②	B	B	・英検の受験者数は昨年より横ばい状態であるので、増加を目指したい。合格率も低下しているため、ゼミなどを充実させる。
		生徒の進路実現に向け、英検受験を奨励し、対策ゼミを設け、合格率を上げる。⑪	C		
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	校内プレゼンテーション大会を実施し、全体・個人のプレゼンテーション力の向上を目指す。①④⑩	A		
		授業における生徒の言語活動の機会を増やす。学期末等にその成果を発表する機会を与える。①③	B		
情報	情報を科学的に理解し実践できるようにする。	伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付けさせる。①③	B	B	・小学校や中学校で学んできたプログラミングについて、連結できるような内容を意識して組み入れていく。
		データを効率的・効果的かつ高精度で処理・加工するための情報処理能力を身に付けさせる。①②③⑫	B		
	情報化社会に参画する態度を養う。	情報化が人間や社会におよぼす影響を理解させる。⑦⑨⑩	B		
		情報化が及ぼす影響を克服するために必要な知識を身に付けさせる。⑦⑨⑩	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分